



Market Forecasts by Y. san - 7月 -

6月予測の自己評価

鉄スクラップ：○ 銅：○ アルミ：○

鉄スクラップ

6月は東京製鉄宇都宮工場特級価格57,500円/トンからスタート。最終的には51,000円/トン。ここ2か月で15,500円/トンも下がりました。今年の最安値を更新。原因は、海外の鉄スクラップやピレットの状況の悪化で、この状況では7月はまだ下がるでしょう。

銅

6月のLMEは9,500/トン台で。国内銅建値は136,000円/トンで始まりましたが、最終はLME8,440ドル/トン台、国内銅建値118,000円/トンまで下がりました。7月は中国の新型コロナウイルス規制の緩和、そして景気後退、物価高から考えると横ばいでしょう。

アルミ

6月のLMEは、2,750ドル/トン台からスタートし、最終的には2,450ドル/トン台まで下がりました。7月の発生は減っていますが、それ以上に需要が少ないためまだ下がるでしょう。

産業廃棄物

産廃発生が減っていると言われてます。事務所の縮小や移転から発生する廃棄物は特に少なく、案件の減少に加え、中古売却も増えています。ただ処分だけではなく、今後はリサイクルよりメイクでしょう。産廃業者は更に厳しくなります。

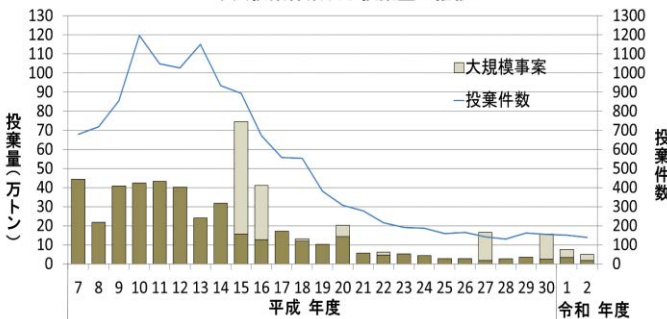
Topics

産業廃棄物の不法投棄の状況について

環境省では、毎年度、全国の都道府県及び政令市(以下「都道府県等」という。)の協力を得て、産廃の不法投棄等対策に係る政策形成のための基礎資料とすることを目的として、新たに判明した不法投棄等事案の状況、及び年度末時点の不法投棄等事案の残存量等を調査し公表しています。

本紙第106号に掲載からしばらく経ちましたが、産業廃棄物(以下「産廃」という。)の不法投棄について、2022年1月25日に環境省が発表した資料(<https://www.env.go.jp/press/110443.html>)に基づき、限られた紙面ですが平成7年度から令和2年度までの26年間の不法投棄件数及び投棄量の推移を下表に掲載するとともに、不法投棄の状況について御紹介いたします。

不法投棄件数及び投棄量の推移



上表中の主な大規模事案は次の通りです。

- 平成15年度: 岐阜市事案 56.7万トン
- 平成16年度: 沼津市事案 20.4万トン
- 平成20年度: 桑名市多度町事案 5.8万トン
- 平成27年度: 甲賀市事案 14.7万トン
- 平成30年度: 天理市事案 13.1万トン
- 令和元年度: 倉敷市事案 4.2万トン
- 令和2年度: 青森県五所川原市事案 3.2万トン

不法投棄等の状況

不法投棄の新規判明件数は、ピーク時の平成10年代前半に比べて、大幅に減少しており、一定の成果が見られます。一方で、令和2年度で年間139件、総量5.1万トン(5,000トン以上の大規模事案4件、計32万トン含む。)もの悪質な不法投棄が新規に発覚し、いまだ跡を絶たない状況にあります。

不法投棄の新規判明事案の実行者のうち、件数が最も多いのは排出事業者で60件(43%)。投棄量が最も多いのは、無許可業者で1.4万トン(27%)でした。また、廃棄物の種類では、件数が最も多いのは、がれき等で52件(37%)、投棄量が最も多いのは建設混合廃棄物で1.8万トン(34%)でした。

不適正処理についても、令和2年度で年間182件、総量8.6万トン(5,000トン以上の大規模事案3件、計4.8万トン含む。)が新規に発覚しており、いまだ撲滅するには至っていません。

いつもの繰り返しになりますが、処理委託する際は「混ぜればごみ、分ければ資源」です。ひと手間かけることで、処理費用を軽減させることができ、最終処分される量も軽減できます。

編集メモ

環境省がまとめた不法投棄の状況をお知らせしました。処理方法が開発されて、不法投棄件数は年々減ってきていますが、廃棄物の処理責任は最後まで排出者という自覚をもって、できる限り資源循環させていく技術開発が進むことを期待しましょう。7月に入りました。記録的に短い梅雨が明けた途端の猛暑で日本中が悲鳴を上げたと思っているうちに、西の方では、線状降水帯に襲われた地域で、一夜にして住居が様変わりするような被害が出ています。この先まだまだ不安定な天候が続くようですが、そんな中で落ち着いたと思っていたコロナ感染が各地で増えているニュースですが、恐れるのではなく、今まで通り with コロナでしっかり対応してゆくことですね。

Series

「私のゴルフ人生続編」第3回



営業部 長谷川 武史

母は私の生活状況を凡そ知っていました。プロゴルファーになりたい気持ちを父に話した時『プロの世界は決して甘くはない、仮にプロになれば、テレビに出られる活躍しても生活が出来るプロは100人もいない。プロ野球の契約金や年俸制もない。その年に活躍して賞金を稼いでも翌年の保証はなく、ゼロから賞金を稼がなければ生きていけない過酷な世界だぞ！中途半端な気持ちでやるならやめておけ！プロになるまで戻って来ない決意があるなら全て自分の力でやり切て来い！金銭的な支援は一切しないぞ！』私にとって絶対的存在の父の言葉は重く、気持ちが揺らぎました。母は父の後ろで何度も何度も頷いており、母も父と同じ考えだと思いましたが、少し違っていました。「父さんは厳しく言ってるけれど、お前が自分の進む道を決意した事が嬉しくてしょうがないんだよ。何かに挑戦する事に価値があり目標は明確なんだから納得いくまで存分にやりなさい！」その母の言葉で腹が決まり、研修中一度も仕送りのお願いはしませんでした。頑固な父は宣言通り金銭的な支援は一切してくれませんでした。母は父に黙って絶妙のタイミングで仕送りをしてくれました。段ボールいっぱいのお米やレトルトカレーなどの食料品に必ず手紙と2万円が添えられており、実家の生活を切り詰めて仕送りをしてくれた母の気持ちを思うと「必ず結果を出して報いてみせる！」と闘志を漲らせて、幾度となく窮地を脱する事が出来ました。ただ、もう一つ大きな悩みがありました。体力です。研修生になって痛感したのが、体が強くなければ勝負にならないという事でした。なぜなら、体重を増やせば大きくする事で飛距離のアドバンテージを得て優位にプレーを進める事が出来るのです。当時の私は165cm、51kgと、中学生のようなガリガリ体型でした。勝手な推測ですが、多分全国の研修生の中では一番小柄だったのではないのでしょうか。月例の同伴競技者の視線は冷ややかで「こいつ小っちゃえな～来る場所間違えてんじゃねえか？」と言わんばかり。スタート前からその雰囲気には飲み込まれスコアを崩してしまう事が頻繁にありました。

ゴルフは上がってなんぼです「こいつ小っちゃいののにやるな！」と思わせれば勝ちですから、自身のプレーに集中して他コースの研修生と同等に渡り合えるまでそう時間はかかりませんでした。日々の練習により体重は56kgまで増え体力差はありましたが飛距離は平均レベルまで押し上げる事に成功したのです。私の時代はヘッドはパーシモン(木製)、シャフトはスチール(鉄)、ボールは糸巻き(ゴムを巻いた物)が主流であり、体力と技術でスコアメイクをしていく選択肢しかなかったのです。クラブのメンテナンスも大変で雨天のラウンドでは木製ヘッドは水を含むことによってクラブの重量が変わり飛距離に影響を及ぼし、トップや、林に打ち込めば一発で変形してボール交換を余儀なくされるのです。そして九州地区予選会まで1か月となりエントリー3名を選抜する所属コース月例会の開催が決まりました！このラウンドの結果と直前10か月分の平均スコアでエントリー3名が確定します！前述で話した通り2名は確定済です。

「最後の1枠」を掴み取る戦いがいよいよ開始となります！！ つづく